肢体不自由

障がい別に過去の配慮例を紹介します。
※授業においては、科目特性に応じて学生本人と教員が話し合い、
ともに着地点を見つけましょう。

1. 概要

四肢や体幹に何らかの姿勢や運動の障害・欠損等があり、日常生活に不自由の続いている状態。身体の一部が欠損している、動かせないだけでなく、動いても自分の意図とは違った動きになる、あるいは、十分な範囲を動かすことができないなど、多様な困難がある。

2. 講義（座学）における配慮例

・希望する座席での着席を認める。
・車椅子の学生の座席を入口近くにする。
・専用の机等を準備する。
・ピアサポーターがノートテイク、PCテイクを行う。
・その他、授業科目の目的等を変更することのない範囲で環境の調整を行う。

3. 実技授業における配慮例

・補助用具を使用して動作を補助する。（例：アーチェリー）
・その他、学生本人がどの程度の動きが可能か、その都度確認しあう。